

第1回瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会 次第

日時：令和4年8月5日（金）午前10時30分～

開催方法：Web会議

1 開会

2 議題

- (1) 会長・副会長の選任
- (2) 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組実績
- (3) 新型コロナウイルス感染症の影響及び対応状況
- (4) 次期連携中枢都市圏構想
- (5) ビジョン懇談会委員からの意見と回答
- (6) その他

3 閉会

資料一覧

資料 1 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏の取組事業の評価
(令和3年度実施事業：評価結果の詳細)

資料 2 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会委員からの意見一覧

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会 委員名簿

任期:令和4年4月1日 ~ 令和6年3月31日

委員氏名	役職等	委員氏名	役職等
有澤 陽子	NPO法人子育てネットひまわり 代表理事	松岡 久美	香川大学経済学部 准教授
植田 俊也	高松琴電琴平電気鉄道(株) 取締役専務 (変更日:令和4年6月16日)	英 誠一郎	高松市選出委員 (Code for Sanuki代表)
上野 忠昭	高松市民生委員児童委員連盟 常任理事	金江 ちひろ	さぬき市選出委員 (かなたまキッチン オーナー)
笠井 三奈	高松市PTA連絡協議会 相談役	加藤 明日香	東かがわ市選出委員 (全国わくわく課協会 理事)
香西 由美子	高松市医師会 副会長 (変更日:令和4年6月23日)	石川 雅志	土庄町選出委員 (土庄町商工会 青年部長)
小西 昌伸	株式会社百十四銀行 ソリューション推進部長 兼 地域創生部長	竹上 剛志	小豆島町選出委員 (Show's 若者会議 代表)
佐野 正	高松観光コンベンション・ビューロー 理事長	鐘江 弓子	三木町選出委員 (三木町町民Reporter、2017獅子舞 姫 (観光大使))
土井 信幸	高松市コミュニティ連合会 副会長	圓藤 曜一	直島町選出委員 (NPO法人直島町観光協会 書記)
永森 道代	高松商工会議所女性会 副会長	山神 藍	綾川町選出委員 (綾川町まち・ひと・しごと創生会議 委員)
長山 貴之	香川大学経済学部 教授	赤字・・・令和4年度中に変更があった委員	

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会 出席者名簿（行政）

市町名	氏名	備考
さぬき市	田中 豊彦	政策課 主査
東かがわ市	橋本 裕生	地域創生課 主査
土庄町	山本 将大	企画財政課 係長
小豆島町	萬代 正道	企画財政課 課長補佐
三木町	堂免 明弘	政策課 主任主事
直島町	大塚 愛貴	まちづくり観光課 主査
綾川町	川原 篤	総務課 主査

役職等	氏名	備考
高松市	上枝 直樹	市民政策局長
高松市	田中 照敏	市民政策局次長（政策課長
高松市	多田 也寸志	政策課主幹（移住・定住促進室長）
高松市	吉田 幸弘	政策課 課長補佐
高松市	松尾 康史	政策課 企画担当課長補佐
高松市	山谷 由季	政策課 企画員
香川県 (オブザーバー)	松葉 勇志	自治振興課 次長兼課長

会長・副会長の選任

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組実績

① 評価の目的

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンに基づく、令和3年度に実施した事業の取組状況について、総合的な観点から検証・評価を実施することで、適切な進行管理を行う。

※ビジョン掲載74事業のうち、再掲（重複）事業4事業を除く70事業（72指標）について評価を実施した。

② 評価について

取組事業ごとに設定しているKPI（成果指標）を基に、成果の達成度等について、連携中枢都市（高松市）において評価を実施する。また、この評価結果については、外部の有識者等で構成するビジョン懇談会からの、御意見・御提案を踏まえ、PDCAサイクルによるマネジメントを実施する。

③ 評価の基準

【KPI設定事業】

- | | |
|-----------------|------------------------------|
| (1) 連携中枢都市（高松市） | KPIによる成果の達成度、妥当性、有効性、効率性から評価 |
| (2) 連携市町 | 成果の達成度、妥当性、有効性から評価 |

【KPI設定対象外事業】

- | | |
|-----------------|-----------------|
| (1) 連携中枢都市（高松市） | 妥当性、有効性、効率性から評価 |
| (2) 連携市町 | 妥当性、有効性から評価 |

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組実績

(1) 連携中枢都市（高松市）

(2) 連携市町

（評価の基準）

	評価	点数		連携市町				
		高松市		評価の基準		KPI設定事業	KPI設定対象外事業	
		KPI設定事業	KPI設定対象外事業					
成果の達成度	成果に対する達成度はどうだったか		高松市と連携市町が、都市圏ビジョンに記載する取組に着手し、連携事業が進捗している場合は、成果があがっていると判断する					
	評価対象年度の目標値に対する達成率		70×達成率					
	A	ビジョンの成果が達成されている等、十分成果があがっている		高松市と連携市町が、それぞれの役割分担のもと連携事業に取り組んでいる		50		
	B	成果があがっているが、更なる取組による成果向上の余地がある		高松市と連携市町が、それぞれの役割分担のもと連携事業に取り組んでいるが、改善の余地がある（更に連携して取組む必要がある）		35		
	C	一定の成果があがっているが、課題もあり、更なる改善が必要である		連携市町の役割分担である事業には取り組めていない（高松市は事業に着手しているが、連携事業の実施にはいたっていない場合など）		28		
D	成果があがっていない、又は、未着手である	高松市と連携市町が、それぞれ役割分担による事業に取り組めていない（高松市が事業を検討中のため、連携市町が具体的に連携事業に取り組めていない場合など）		0				
妥当性評価	事業の目的・手法は圏域住民ニーズや社会情勢に照らして、妥当か		圏域の首長・議長で構成される連携中枢都市圏推進委員会の了承を得て、都市圏ビジョンに登載されている事業であることから、都市圏ビジョン登載時においては、事業の目的・手法は妥当であったと判断する					
	A	妥当である	10	10	都市圏ビジョン登載時と変わりはない		25	25
	B	市民からの要望等が寄せられている等、改善の余地がある	7	7	都市圏ビジョン登載時から環境の変化等により改善の余地ができた		18	18
	C	利用者が少ない等、大幅な見直しが必要である	4	4	都市圏ビジョン登載時から環境の変化等により改善が必要となった		14	14
	D	圏域住民ニーズに合っていない	0	0	都市圏ビジョン登載時から環境の変化等により事業の必要性がなくなった		0	0
有効性評価	圏域全体の経済成長のけん引、高次都市機能の集積・強化又は圏域全体の生活関連機能サービスの向上に貢献しているか		圏域の首長・議長で構成される連携中枢都市圏推進委員会の了承を得て、都市圏ビジョンに登載されている事業であることから、都市圏ビジョン登載時においては、事業の目的・手法は妥当であったと判断する					
	A	貢献が大きい	10	10	都市圏ビジョン登載時から事業の有効性に変わりはない		25	25
	B	貢献が中程度／義務的的事业	7	7	都市圏ビジョン登載時から事業の効果に変わりはないが、有効性は中程度である		18	18
	C	貢献が小さい	4	4	都市圏ビジョン登載時から事業の有効性が小さくなった		14	14
	D	全く貢献していない	0	0	都市圏ビジョン登載時から考えられる事業の有効性がなくなった		0	0
効率性評価	費用対効果はどうだったか							
	A	向上している	10	10				
	B	同程度	7	7				
	C	低下している	4	4				
	D	10%以上低下している	0	0				
総得点		100	30	総得点		100	50	
評価結果 （総合評価）	A	得点率が総得点の86%以上である	86以上	26以上	A	得点率が総得点の86%以上である	86以上	43以上
	B	得点率が総得点の71%以上86%未満である	71-85	22-25	B	得点率が総得点の71%以上86%未満である	71-85	35-42
	C	得点率が総得点の56%以上71%未満である	56-70	17-21	C	得点率が総得点の56%以上71%未満である	56-70	28-34
	D	得点率が総得点の56%未満である	55以下	16以下	D	得点率が総得点の56%未満である	55以下	27以下

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組実績

④ 成果の達成度について

【連携中枢都市（高松市）】

成果の達成度については、100点満点のうち70点を振り分け、KPIをどの程度達成したかを**客観的に評価**を行った。

例えば、KPIを達成している場合は、「70点×100%（達成率）＝70点」となるのに対して、KPIを3割達成した場合は、「70点×30%（達成率）＝21点」となり、仮に他の3つの評価基準（妥当性、有効性、効率性）が10点満点であっても、総得点は55点以下となり評価結果（総合評価）は『D』評価となる。

【連携市町】

成果の達成度については、100点満点のうち50点を振分け、**取組状況を勘案した上で、それぞれの役割分担に応じた取り組みが行えたか**で、0・28・35・50点のいずれかで得点化を行った。

⑤ 評価結果の確認

全市町が同じ視点で評価が行えるように、評価をする際の考え方について、連携中枢都市圏の担当者が集まる事務局会において情報共有を行った。

また、高松市が各市町からの評価結果の取りまとめを行い、同様の取組実績にもかかわらず、市町間で評価結果に差があるものに関して、該当市町に評価結果の確認を行った。

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組実績

⑥ 各市町の評価状況

	高松市	さぬき市	東かがわ市	土庄町	小豆島町	三木町	直島町	綾川町
A・B 評価	50指標 (69.4%)	42指標 (93.3%)	32指標 (86.5%)	38指標 (73.1%)	40指標 (83.3%)	55指標 (94.8%)	24指標 (53.3%)	50指標 (87.7%)
C・D 評価	22指標 (30.6%)	3指標 (6.7%)	5指標 (13.5%)	14指標 (26.9%)	8指標 (16.7%)	3指標 (5.2%)	21指標 (46.7%)	7指標 (12.3%)

⑦ 評価割合の昨年度との比較（上段：令和3年度、下段：令和2年度）

	高松市	さぬき市	東かがわ市	土庄町	小豆島町	三木町	直島町	綾川町
A・B 評価	69.4% (68.1%)	93.3% (91.1%)	86.5% (89.2%)	73.1% (71.2%)	83.3% (79.2%)	94.8% (96.6%)	53.3% (48.9%)	87.7% (89.5%)
C・D 評価	30.6% (31.9%)	6.7% (8.9%)	13.5% (10.8%)	26.9% (28.8%)	16.7% (20.8%)	5.2% (3.4%)	46.7% (51.1%)	12.3% (10.5%)

※新型コロナウイルス感染症の感染対策や手法を変更して実施した事業が増加し、5市町において「A・B評価」が昨年度と比較して増加（影響の詳細については議題2で説明）

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組実績

⑧ 全体的に評価が高い事業（各市町の評価が全てA・Bかつ半数以上がAの事業）

22事業（令和2年度：20事業）

- （例）産学金官民一体となった懇談会の設置・運営等
- 瀬戸内国際芸術祭推進事業
- 地域包括支援センター運営事業
- 介護認定審査会事業
- 災害時相互応援協定

⑨ 全体的に評価が低い事業（各市町の評価の半数以上がC・Dの事業）

8事業（令和2年度：11事業）

- （例）ブランド農産物育成支援事業
- 誘客促進事業観光連携協議会等の設置・運営
- 高松市屋島競技場の活用
- グリーン・ツーリズム等農業振興事業

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組実績

⑩ 評価結果一覧（令和3年度）（1/2）

連携協約項目	No.	事業(取組)名	高松市	さぬき市	東かがわ市	土庄町	小豆島町	三木町	直島町	綾川町
圏域全体の 経済成長の けん引	1	産学金官民一体となった懇談会の設置・運営等	A	B	A	A	B	A	B	A
	2	幅広い層が集まる「場」づくり事業	A	B	B	A	B	B	C	C
	3	中小企業経営力強化事業	D			B	B			
	4	ブランド農産物育成支援事業	D	C	C	B				B
	5	ふるさと納税に係る共通返礼品の検討	A	B	A	B	A	A	C	B
	6	誘客促進事業観光連携協議会等の設置・運営	C	B	B	D	D	B	C	D
	7	国内誘客促進事業	C	B	B	B	B	B	B	B
	8	海外誘客促進事業	D	B	B	B	B	B	C	B
	9	国内外観光客向け情報発信事業	C	B	B	A	B	B	C	A
	10	瀬戸内国際芸術祭推進事業	A			A	A		A	
	11	新たな観光プランの企画、販売等	C	B	B	B	B	B	C	B
	12	イベント交流の促進	D	B	B	A	B	B	C	B
	13	デリバリーアーツ事業	D	B	B	B				A
	14*1	文化芸術鑑賞等の機会の提供	B	B	B	B	B	A	B	A
	14*2	文化芸術鑑賞等の機会の提供	C	B	B	B	C	B	C	C
高次の都市 機能の集 積・強化	15	観光バリアフリーのためのUDマップ作成・活用事業	A	B	A	B	A	A	B	A
	16	医療人材の確保・育成	A					A		
	17	医療職員の交流等	A	B		B	B	B		A
	18	ICカードを利用した公共交通利用促進事業	A	B		B	A	A		A
	19	大学等と連携した、将来の圏域を担うリーダーの育成	A	B	B	B	B	B	C	B
	20	産学官連携推進事業	A	B	B	C	C	A	C	B
	21	データ利活用型スマートシティ推進事業	C	B	A	D	B	B	C	A
	22*1	高松市立病院運営事業	A			B	B	B	A	B
	22*2	高松市立病院運営事業	A			B	B	B	C	B
	23	救急医療体制の確保	A					A	A	A
	24	救急艇の活用	A			A	A		C	
圏域全体の 生活関連機 能サービ スの向上	25	島しょ部(土庄町及び小豆島町)への医師派遣事業	D			D	D			
	26	遠隔医療ネットワークを使った連携	A	A		C	C	B		B
	27	「地域包括ケア病棟」運用事業	A	A		B	B	B		B
	28	がん検診の広域化	A						A	
	29	地域密着型サービス(認知症対応型共同生活介護)広域利用事業	A						C	
	30	在宅医療・介護連携推進事業	B					B	C	
	31	地域包括支援センター運営事業	A	B	A	B	B	A	A	B
	32	徘徊高齢者保護ネットワーク	A	B	B			A		A
	33	介護認定審査会事業	A					A	A	A
	34	自立支援協議会運営事業	A					A	A	
	35	障害支援区分等審査会業務の連携	A					A	A	A

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組実績

⑪ 評価結果一覧（令和3年度）（2/2）

連携協約項目	No.	事業(取組)名	高松市	さぬき市	東かがわ市	土庄町	小豆島町	三木町	直島町	綾川町	
圏域全体の生活関連機能サービスの向上	36	ファミリー・サポート・センター事業	A	B				B		B	
	37	移動図書館巡回事業	A						A		
	38	読書推進ボランティア養成事業	C	B	B	C	B	B	C	B	
	39	帰国児童等支援事業	C					C		A	
	40	特別支援教育推進連携事業	A			B	B	B		A	
	41	こども未来館学習体験事業	A	A		A	B	A	A	C	
	42	史跡・遺跡の調査研究及び発信	B	B	A	C					
	43	高松市埋蔵文化財センターの運営	B	B	A	A	B			B	
	44	中学校総合体育大会等の連携	A					A	B		
	45	高松市屋島競技場の活用	B	B	C	C	C	B	C	C	
	46	地域密着型トップスपोर्टチームの試合観戦機会等の提供	D	B	A	B	B	B	B	B	
	47	土地利用施策の広域的な連携・推進	A					C		B	
	48	グリーン・ツーリズム等農業振興事業	B			C	C	B			
	49	獣害対策事業	D					B			
	50	産学官連携推進事業【再掲】	※再掲事業								
	51	生涯学習推進事業	D			B	B				
	52	男女共同参画センター学習研修事業	B			C	B			C	
	53	災害時相互応援協定	A	A	A	A	A	A	A	A	
	54	香川県消防相互応援協定	A	A	A	A	A	A	A	A	
	55	高松空港及びその周辺における消火救難活動に関する協定	A					A		A	
	56	消防業務の事務委託	A					A		A	
	57	地域防災対策事業	A	B	B	A	A	A	B	B	
	58	一般廃棄物の処理・処分に関する業務	A							A	
	59	し尿処理に関する業務	B					A		A	
	60	環境学習等推進事業	C	B	C	C	B	A	B	B	
	61	環境負荷の少ない自動車の普及促進	C	C	C	B	B	C	C	C	
	62	小型家電等リサイクル推進事業	A	B	B	B	B	A	A	B	
	63	不法投棄対策事業の推進	D	B	B	B	A	A	A	B	
	64	ICカードを利用した公共交通利用促進事業【再掲】	※再掲事業								
	65	コミバス等へのIruCa導入事業	A	B		A	A	A		B	
	66	地域公共交通再編事業	A	B	B			A		B	
	67	データ利活用型スマートシティ推進事業【再掲】	※再掲事業								
	68	橋りょう改築修繕事業	B	C	A	C	B	B	B	B	
	69	道路新設改良事業	B	A		C		B		B	
70	ブランド農産物育成支援事業【再掲】	※再掲事業									
71	自然体験等を通じた住民の交流の促進	A	B	C	C	C	B	C	B		
72	移住・交流促進事業	D	B	A	B	A	A	A	B		
73	人材育成事業、合同研修等の実施	B	B	B	A	A	A	C	A		
74	地域コミュニティ人材養成事業	D	B	B	B	B	B	C	B		

新型コロナウイルス感染症の影響及び対応状況

① 令和3年度「瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会」時の新型コロナウイルス感染症への対応方針

② 課題と現在の取組の考え方（令和3年度）

コロナ禍においても、圏域の市町が連携を図りながら、事業の実施により経済を活性化し、圏域全体の魅力を高めることが必要



③ 令和3年度以降の対応方針

令和元年度末からの新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、必要な感染症対策をしながら、連携事業を実施するため、引き続き取組方法の見直しを実施

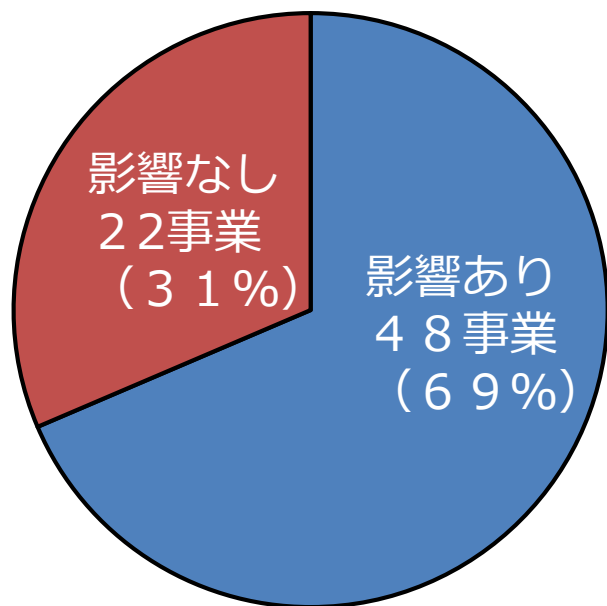
- ・ 感染拡大の防止対策を実施
- ・ デジタル技術を積極的に活用

新型コロナウイルス感染症の影響及び対応状況

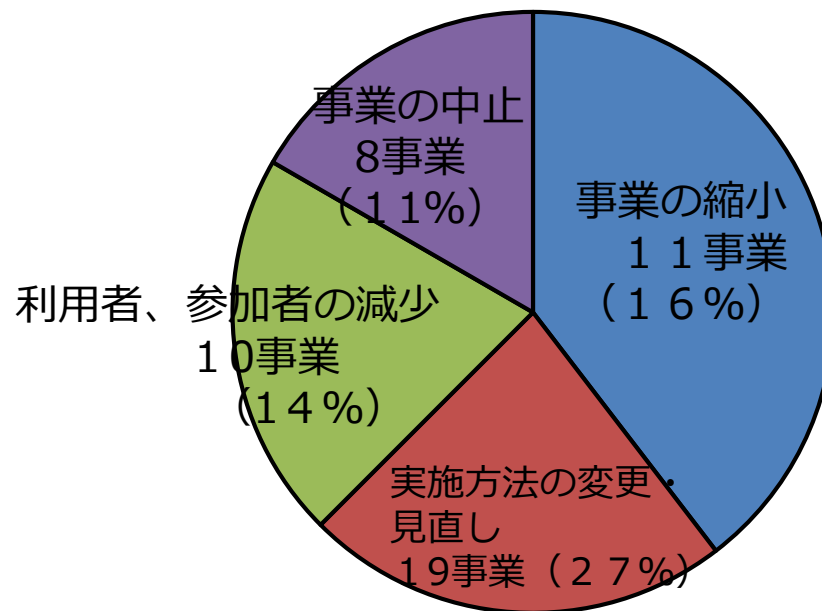
④ 新型コロナウイルス感染症の事業への影響

令和3年度のビジョンに掲載されている全70事業（再掲事業を除く）のうち、48事業（69%）に影響あり

新型コロナウイルス感染症の影響の有無



主な影響



(参考) 令和2年度は、全70事業（再掲事業を除く）のうち、49事業（70%）に影響あり

新型コロナウイルス感染症の影響及び対応状況

⑤ 新型コロナウイルス感染症の影響があった事業

事業の縮小を行った主な事業

事業名	影響の内容
ふるさと納税に係る共通返礼品の検討	圏域内の地酒セットと、圏域内の周遊観光の共通返礼品を検討したが、周遊観光は見送り
ファミリー・サポート・センター事業	会員養成講座を3回実施予定であったが、1回中止
生涯学習推進事業	予定していた講座のうち一部の講座を開催中止
環境学習等推進事業	出前講座の参加人数を制限

実施方法の変更・見直しがあった主な事業

事業名	影響の内容
産学金官民一体となった懇談会の設置・運営等	ビジョン懇談会、推進委員会、事務局会をWebで開催
デリバリーアーツ事業	必要な感染症対策をしたうえで、コンサート6メニュー、16公演（3講演は動画視聴）を実施
特別支援教育推進連携事業	特別支援教育の研修会をオンラインで開催
中学校総合体育大会等の連携	無観客で大会を開催（屋外で十分な対策ができる競技を除く）

新型コロナウイルス感染症の影響及び対応状況

⑥ 新型コロナウイルス感染症の影響があった事業

利用者、参加者の減少があった主な事業

事業名	影響の内容
中小企業経営力強化事業	講習会の開催回数を減らすことや会場規模の縮小により、受講者が大幅に減少 (R2 1,397人 → R3 666人)
海外誘客促進事業	東アジア4路線の休止により宿泊者数が大幅に減少 (R2 75,290人 → R3 13,870人)

事業が中止になった主な事業

事業名	影響の内容
高松市屋島競技場の活用	パラスポーツ体験会を中止
不法投棄対策事業の推進	6つのクリーン作戦を中止

新型コロナウイルス感染症の影響及び対応状況

⑦ 新型コロナウイルス感染症の感染対策を図りながら実施した事業

感染拡大の防止対策を実施した主な事業

事業名	取組の内容
瀬戸内国際芸術祭推進事業	鑑賞期間を限定し「ART SETOUCHI 2021」を開催 参加人数を縮小して瀬戸内国際芸術祭2022のプレイベントを実施
高松市埋蔵文化財センターの運営	参加人数を縮小して実施

デジタル技術を積極的に活用した主な事業

事業名	取組の内容
男女共同参画センター学習研修事業	Web会議システムを活用して、各種セミナー・講座を実施
地域防災対策事業	Web会議システムを活用して市民防災講演会を実施 対面とWebのハイブリッドにより情報交換会を開催

新型コロナウイルス感染症の影響及び対応状況

⑧ 令和2年度より改善が見られた事業

利用者・参加者が増加した主な事業

事業名	取組の内容
史跡・遺跡の調査研究及び発信	参加人数を縮小して実施 R2 1,271人 → R3 1,636人
男女共同参画センター学習研修事業	Web会議システムを活用して、各種セミナー・講座を実施 R2 1,018人 → R3 1,064人

その他実績が増加した主な事業

事業名	取組の内容
移動図書館巡回事業	必要な感染症対策をしたうえで実施 R2 5,850冊 → R3 5,987冊
文化芸術鑑賞等の機会の提供	美術館と学校をWebでつないで遠隔授業を実施 R2 5校 → R3 18校

⑨ まとめ

- 全70事業の約7割に新型コロナウイルス感染症の影響有り
- 令和2年度と比較してA・B評価の割合が約1割増加



コロナ禍における「新しい生活様式」を踏まえた、事業実施手法が定着

⑩ 今後の対応方針

- 引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策の徹底と社会経済活動の両立を図りながら、達成率の向上を図る。
- これまでの取組の効果を検証し、引き続き、取組方法の改善を図る。

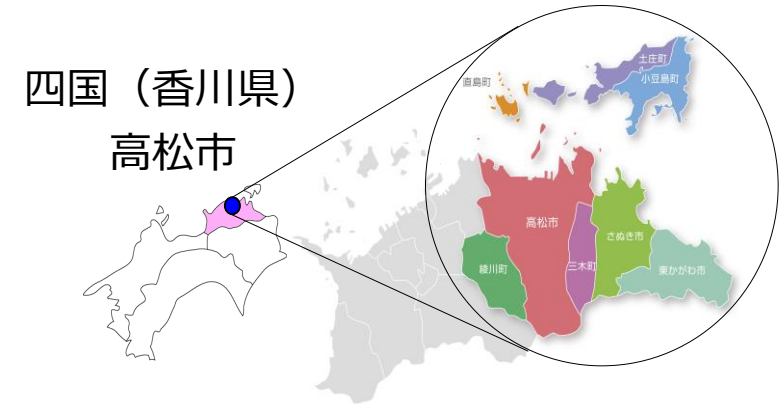
次期連携中枢都市圏構想

① 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏の概要

高松市を連携中枢都市として、3市5町で連携中枢都市圏を形成
→香川県の人口・面積の約6割を占める圏域

【圏域の構成市町】 3市5町

高松市/さぬき市/東かがわ市/土庄町/小豆島町/三木町/直島町/綾川町



区分	人口 (人)	面積 (km ²)	備考
香川県	950,244	1876.92	面積…()は、県内に占める割合。 令和4年1月1日現在。 人口…()は、県内に占める割合。 令和2年10月1日現在。
瀬戸・高松広域連携中枢都市圏	572,163 (60.2%)	1056.75 (56.3%)	
(内)高松市	417,496 (43.9%)	375.54(20.0%)	

現在の
計画期間

平成28年度から令和5年度までの8年間

次期連携中枢都市圏構想

② 次期連携中枢都市圏構想策定への課題

「瀬戸・高松広域連携中枢都市圏」を形成し、地域の魅力を高めることで、人口減少を抑制するため、各種連携事業に取り組んだ結果、一定の効果はあったが、**圏域の人口減少は、当初の想定より進行**

区分		定住自立圏時 (H22.10)	5年前の値 (H27.10)	令和2年度国政調査確 定値 (R2.10)	目標値	
					R2	R5
圏域人口の推移 ※千人未満の端数は四捨五入	総人口	59.4万人	58.5万人	57.2万人	57.7万人	57万人
	増減率	—	-1.5%	-3.7%	—	—

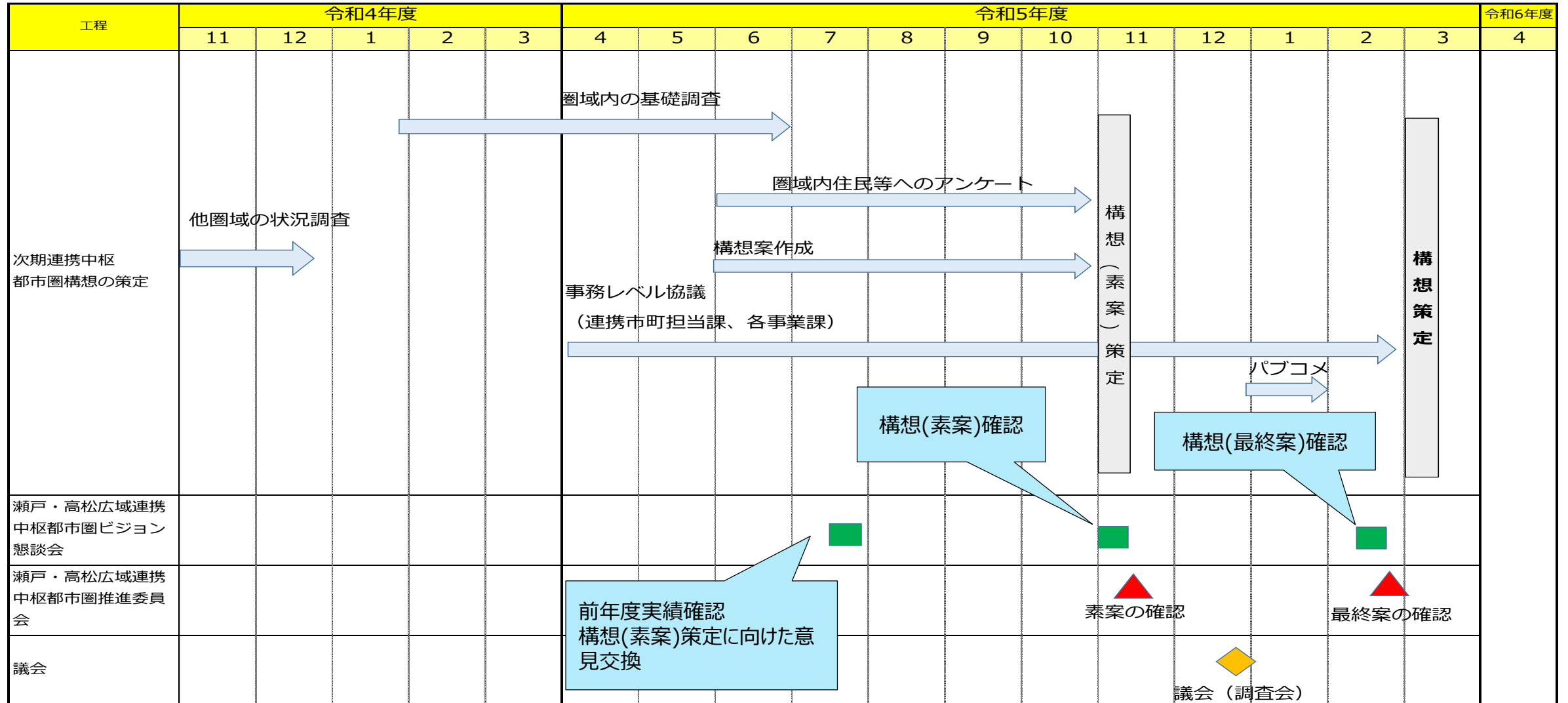
区分		定住自立圏時 (H22.10)	5年前の値 (H27.10)	令和2年度国政調査確 定値 (R2.10)
香川県人口の推移 ※千人未満の端数は四捨五入	総人口	99.6万人	97.6万人	95万人
	増減率	—	-2%	-4.6%

区分		定住自立圏時 (H22.10)	5年前の値 (H27.10)	令和2年度国政調査確 定値 (R2.10)
高松市人口の推移 ※千人未満の端数は四捨五入	総人口	41.9万人	42.1万人	41.7万人
	増減率	—	0.4%	-0.5%

○圏域の人口減少率は、香川県全体と比較すると緩やか
○ただし、高松市の人口推移が大きく影響

次期連携中枢都市圏構想

⑤ スケジュール（案）



ビジョン懇談会委員からの意見と回答（抜粋）

ビジョン懇談会委員等からの意見

（拡充）2021共働き子育てしやすい街ランキングで高松市が中四国で1位に選ばれましたが、一般にそれほど周知されておらず、また具体的にどこが子育てしやすいかもよくわかりません。子育て支援の活動で積極的に取り組んでいる団体や人材は多く、行政が積極的に周知に力を注いでくれると子育て世代に対する魅力度がアップするのではないのでしょうか。

連携中枢都市の現状と、今後の連携の見通し

「共働き子育てしやすい街ランキング2021」では、リモートワークの普及などに伴い、住む街を改めて選び直す動きが進みつつあることから、子育て関連施設（インフラ）の充実度や子育て世帯への補助（お金・サービス）、保育の質を高めるソフト面の取組等を重視して、ランキング化を行っているもので、本市においても、病児・病後児保育施設数や「高松市移住促進家賃等補助金」などに関し、子育て世帯に対し加算を設けるなどの子育て世帯の移住者への優遇策、保育現場への巡回指導を行う人材の配置等を始めとする各種取組について評価をいただいたものと認識しております。

また、本市の子育て支援情報については、子育てハンドブックや子育て情報サイト、SNS等により積極的に発信しており、引き続き、子育て支援団体と連携しながら発信してまいります。

ビジョン懇談会委員からの意見と回答（抜粋）

ビジョン懇談会委員等からの意見

（自由）【交流人口増加への戦略的な取組】

MICEの開催について、変革があると思います。これまで、「開催地となること＝参加者全員が来高する」ということが、ハイブリッド会議の登場により、参加者の半分はオンライン参加ということもあり得ると思います。

ウィズコロナ・ポストコロナ時代においては、高松開催に実際に参加を促すような取組が必要となっていてきており、県立体育館などハード面が整備されつつある中、広域での地域の魅力の発信が必要になると考えています。

また、サンポート高松には、体育館、サンポートホール、レグザムホール、国際会議場と公的施設が集積しつつありますが、運営主体別々で、それぞれのルールがあります。個別に利用する場合は問題ありませんが、体育館完成後の1万人規模の大会の場合、周辺施設を利用せざるを得ないため、所有者である県・市が主導して利用しやすいルール作りをすることが必要であると考えています。「体育館だから」「文化施設だから」という理由には一定の配慮はしつつも、人口減少社会に突入し、交流人口増加が重要となっている中、圏域の維持、活性化につなげるという観点では、戦略的な取組が必要と感じています。

連携中枢都市の現状と、今後の連携の見通し

圏域内、県内の観光スポット、歴史、文化、食、体験型コンテンツなど、MICEで「高松に来たら何ができるか」を視覚・聴覚に訴える、MICE参加者向けプロモーション映像を作成したことから、今後積極的にPRに活用することで、リモートでなく、「実際に高松に行きたい！」とだけ思っていただけでなく、現地参加者の増加及び圏域内を周遊するエクスカージョンの実施など、滞在時間の延長と、それに伴う観光消費額の増大を図ってまいります。

また、サンポート周辺の各施設の利便性向上が、高松でのMICE開催件数・参加者数の増加、ひいては圏域内での観光消費額の増加につながることから、利用者が使いやすいルール作りについて、サンポート周辺の県や市が所管する施設ごとの事情等を考慮した上で、今後検討してまいります。